

雨水流出抑制施設設置基準



平成26年4月
足立区都市建設部

1. 雨水流出の必要抑制量について

(1) 河川流域の確認

足立区は中川・綾瀬川流域と荒川流域に分かれています。別紙1の流域区分け図に基づき、開発予定地の流域を確認してください。

(2) 流域における必要抑制量の把握

1) 中川・綾瀬川流域

中川・綾瀬川流域は総合治水対策特定河川流域に指定されており、中川・綾瀬川流域整備計画に基づき、以下の抑制量が定められています。

①敷地面積500㎡以上10,000㎡未満の場合

$$\text{必要抑制量 } A \text{ (m)} = \text{開発面積 (m}^2\text{)} \times 0.05 \text{ (m)}$$

②敷地面積10,000㎡以上の場合

$$\text{必要抑制量 } A \text{ (m)} = \text{開発面積 (m}^2\text{)} \times 0.095 \text{ (m)}$$

2) 荒川流域

荒川流域は東京都総合治水対策協議会や東京都豪雨対策基本方針（平成19年8月）における「その他の流域」として、以下の抑制量が定められています。

①敷地面積500㎡以上の場合

$$\text{必要抑制量 } A \text{ (m)} = \text{開発面積 (m}^2\text{)} \times 0.05 \text{ (m)}$$

3) 敷地面積及び開発面積の考え方

上記の敷地面積は、集合団地等の場合は、新築や建替計画を行う施設の全ての敷地が対象となります。例えばA棟とB棟が道路等によって区画割されていても合算した面積が単位抑制量の判断基準となります。

(例) C団地のA棟の敷地が5000㎡、B棟の敷地が5500㎡でA棟の建替えを行う場合

⇒敷地面積を10500㎡、開発面積を5000㎡とする。

2. 浸透能力の把握について

(1) 地下水位の確認

ボーリングデータ等から地下水位を算定してください。当該地のボーリング調査を実施していない場合は、公表されている近傍の地点のデータを準用して構いません。浸透能力への影響を踏まえ、地下水位と浸透施設の底面の距離は0.5m以上離して検討してください。

また、地下水位が地表面より1m以内の場合は、透水性舗装を除き、浸透施設の効果が無いものとみなします。

(2) 土質の確認

ボーリングデータ等から表土下部の土質が下記に該当する場合は、透水性が期待できないため、飽和透水係数を「0」としてください。

- ①飽和透水係数が 10^{-7}m/s より小さい場合
- ②空気間隙率が10%以下で土が良く締め固まった状態
- ③粒度分布において、粘土の占める割合が40%以上（ただし、火山灰風化物いわゆる関東ロームなどは除く）のもの

(3) 飽和透水係数の算定

原則、ポアホール法等による現地浸透試験を実施し、当該地の飽和透水係数を算定してください。やむを得ない事情等により、現地浸透試験が実施困難な場合は、以下の飽和透水係数を使用してください。

$$\text{飽和透水係数 } f = 5.83 \times 10^{-6} \text{ (m/s)} = 0.021 \text{ (m/hr)}$$

(4) 雨水浸透施設と構造物のはなれについて

隣接地及び建築物の基礎付近に設置する場合は、雨水浸透施設の掘削深を考慮して、建築物等の安全性が損なわれないように適切なはなれを設定してください。また、地下埋設物（ガス管など）がある場合は、30cm以上離して設置してください。

3. 浸透・貯留施設の検討フローについて

放流先（流末の公設樹）の確認（東京都下水道局と調整）

※まずは当該地の放流先が合流式下水道か分流式下水道か確認してください。
また、排水協議など流域の考え方についても確認してください。



敷地内の全ての排水経路の検討

※敷地内の全ての排水経路とは、屋根雨水や空地等の雨水処理も含まれます。
集水から流末の公設樹までの排水計画を検討してください。
※透水性舗装などの浸透施設は、あくまで敷地外への流出量を軽減する目的
で設置されるものであり、浸透施設の設置の有無に係らず、下水道施設への
排水施設は必要となります。



雨水流出抑制施設の検討

※現場条件や土地の利用形態、経済性等から、必要な抑制量を満足するために
雨水流出抑制施設の種類や規格や配置等を検討してください。



放流量の検討

※オリフィス等の設置により、下水道や水路等への放流量を 20mm/hr 以下と
してください。

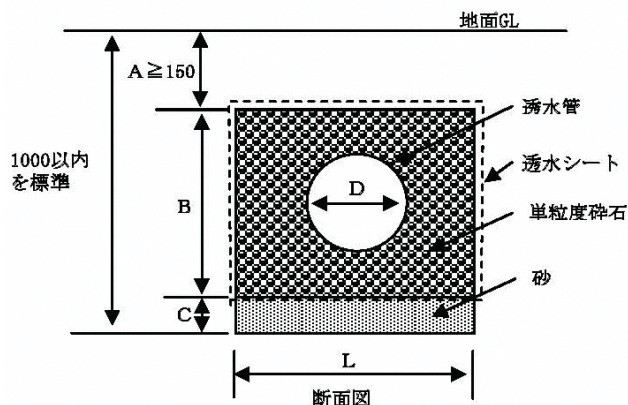


雨水流出抑制施設担当者へ提出

※担当者が本提出前にチェックを行います。

4. 各浸透施設及び雨水・貯留量計算例

(1) 浸透トレンチ



○単位浸透量の算出方法

単位浸透量 $Qf = C_1 \times \text{比浸透量} K \times \text{飽和透水係数 } f$

Qf : 浸透施設 (mあたり) の単位浸透量 (m^3/hr)

C_1 : 影響係数 (地下水位の影響 0.9、目詰まりの影響 0.9 で 0.81 とする)

K : 浸透施設の比浸透量 (m^2)

f : 土壌の飽和透水係数 (m/hr)

○比浸透量の算出方法

比浸透量 $K = 3.093 \times (B + C) + (1.34 \times L + 0.677)$

①飽和透水係数が $0.021\text{m}/\text{hr}$ の場合の単位貯留・浸透量早見表

	管径 D (mm)	L (mm)	A (mm)	B (mm)	C (mm)	設計水頭 B+C (m)	比浸透量 (m^2)	単位浸透量 ($\text{m}^3/(\text{m} \cdot \text{hr})$)	空隙貯留量 (m^3/m)	単位貯留・浸透量 ($\text{m}^3/(\text{m} \cdot \text{hr})$)
I	75	250	150	280	20	0.30	1.940	0.033	0.027	0.060
II	100	300	150	325	25	0.35	2.162	0.037	0.039	0.076
III	125	350	150	375	25	0.40	2.383	0.041	0.054	0.095
IV	150	400	150	420	30	0.45	2.605	0.044	0.070	0.114
V	200	550	200	560	40	0.60	3.270	0.056	0.128	0.184
VI	200	750	250	700	50	0.75	4.002	0.068	0.204	0.272

②飽和透水係数が0m/hrの場合の単位貯留・浸透量早見表

	管径 D (mm)	L (mm)	A (mm)	B (mm)	C (mm)	設計水頭 B+C (m)	比浸透量 (m ²)	単位浸透量 (m ³ /(m・hr))	空隙貯留量 (m ³ /m)	単位貯留・浸透量 (m ³ /(m・hr))
I	75	250	150	280	20	0.30	1.940	0	0.027	0.027
II	100	300	150	325	25	0.35	2.162	0	0.039	0.039
III	125	350	150	375	25	0.40	2.383	0	0.054	0.054
IV	150	400	150	420	30	0.45	2.605	0	0.070	0.070
V	200	550	200	560	40	0.60	3.270	0	0.128	0.128
VI	200	750	250	700	50	0.75	4.002	0	0.204	0.204

○空隙貯留量の算出方法

浸透トレンチの空隙貯留量 (m³/m)

$$= 3.14 \times (D/2)^2 + (B \times L - 3.14 \times (D/2)^2) \times \text{空隙率}$$

※単粒度碎石及び砂の空隙率は35% (0.35) としてください。

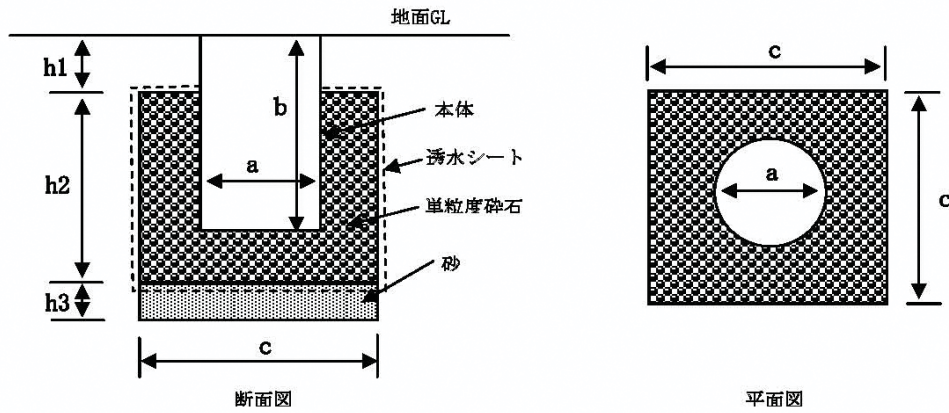
③必要添付資料及び記載事項

- ・ 構造図
- ・ 浸透トレンチの雨水浸透・貯留量計算式 (早見表以外の規格の場合)
- ・ 敷地平面図に設置延長 (区間長、合計延長)、勾配等を記入

④計画にあたっての留意点

- ・ 勾配は1%を標準とする。
- ・ 既設構造物から開削深1:1または1m以上離すこと。
- ・ 平行して設置する場合は、トレンチとトレンチの間を2m以上離すことを原則とする。
- ・ メーカーの製品を使用する場合は、区の担当者と必ず打合せをすること。また、メーカーの流出抑制計算書を添付すること。
- ・ 流末にオリフィス柵を設置すること。
- ・ トレンチの直線部の延長は15m以内を標準とし、最長でも20m以内とする。20mを超える場合は、必ず中間柵を設置すること。
- ・ 浸透トレンチを柵に接続する場合は、なるべく浸透トレンチの流出側の管底を流入側の管底より高い位置で接続すること。

(2) 浸透雨水枴



○単位浸透量の算出方法

単位浸透量 $Qf = C \times \text{比浸透量} K \times \text{飽和透水係数 } f$

Qf : 浸透施設 (個あたり) の単位浸透量 (m^3/hr)

C : 影響係数 (地下水位の影響 0.9、目詰まりの影響 0.9 で 0.81 とする)

K : 浸透施設の比浸透量 (m^2)

f : 土壌の飽和透水係数 (m/hr)

○比浸透量の算出方法 (正方形枴)

$$\begin{aligned} \text{比浸透量 } K = & (0.120 \times c + 0.985) \times (h2 + h3)^2 \\ & + (7.837 \times c + 0.82) \times (h2 + h3) \\ & + (2.858 \times c - 0.283) \end{aligned}$$

①飽和透水係数が $0.021\text{m}/\text{hr}$ の場合の単位貯留・浸透量早見表

	枴の 径 a (mm)	深さ b (mm)	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	施設幅 c (mm)	設計水頭 (h2+h3) (m)	比浸透量 (m^2)	単位浸透量 ($\text{m}^3/(\text{個} \cdot \text{hr})$)	空隙貯留量 ($\text{m}^3/\text{個}$)	単位貯留・浸 透量 ($\text{m}^3/(\text{個} \cdot \text{hr})$)
I	150	400	100	390	25	300	0.415	2.066	0.035	0.016	0.051
II	200	400	100	390	25	400	0.415	2.679	0.046	0.028	0.074
III	250	500	100	510	30	500	0.540	4.010	0.068	0.057	0.125
IV	300	500	100	510	30	600	0.540	4.722	0.080	0.083	0.163
V	350	600	100	630	35	700	0.665	6.384	0.109	0.139	0.248
VI	400	600	100	630	35	800	0.665	7.196	0.122	0.182	0.304
VII	500	800	100	880	50	1000	0.930	11.582	0.197	0.397	0.594

②飽和透水係数が 0m/hr の場合の単位貯留・浸透量早見表

	柵の 径 a (mm)	深さ b (mm)	h 1 (mm)	h 2 (mm)	h 3 (mm)	施設幅 c (mm)	設計水頭 (h2+h3) (m)	比浸透量 (m ³)	単位浸透量 (m ³ /個・hr)	空隙貯留量 (m ³ /個)	単位貯留・浸 透量 (m ³ /個・hr)
I	150	400	100	390	25	300	0.415	2.066	0	0.016	0.016
II	200	400	100	390	25	400	0.415	2.679	0	0.028	0.028
III	250	500	100	510	30	500	0.540	4.010	0	0.057	0.057
IV	300	500	100	510	30	600	0.540	4.722	0	0.083	0.083
V	350	600	100	630	35	700	0.665	6.384	0	0.139	0.139
VI	400	600	100	630	35	800	0.665	7.196	0	0.182	0.182
VII	500	800	100	880	50	1000	0.930	11.582	0	0.397	0.397

○空隙貯留量の算出方法

浸透柵の空隙貯留量 (m³/個)

$$= 3.14 \times (a/2)^2 \times (b-h1) + (c \times c \times h2 - 3.14 \times (a/2)^2 \times (b-h1)) \times \text{空隙率}$$

※単粒度碎石及び砂の空隙率は 35% (0.35) としてください。

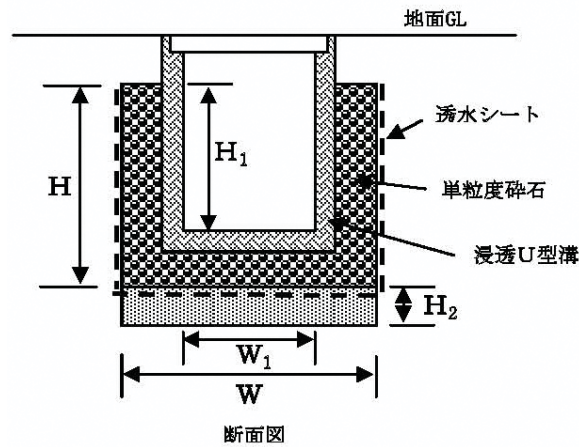
③必要添付資料及び記載事項

- ・ 構造図
- ・ 浸透雨水柵の雨水浸透・貯留量計算式（早見表以外の規格の場合）
- ・ 敷地平面図に設置箇所、合計個数を記入

④計画にあたっての留意点

- ・ 浸透雨水柵の内径は維持管理上、適切な大きさとする。

(3) 浸透側溝 (U型溝)



○比浸透量の算出方法

$$\text{比浸透量 } Kf = aH + b$$

$$a : 3.093$$

$$b : 1.34W + 0.677$$

○単位浸透量の算出方法

$$\text{単位浸透量 } Qf = C \times \text{比浸透量 } Kf \times \text{飽和透水係数 } f$$

Qf : 浸透施設 (mあたり) の単位浸透量 (m^3/hr)

C : 影響係数 (地下水位の影響 0.9、目詰まりの影響 0.9 で 0.81 とする)

Kf : 浸透施設の比浸透量 (m^2)

f : 土壌の飽和透水係数 (m/hr)

○空隙貯留量の算出方法

浸透側溝の空隙貯留量 (m^3/m) = 碎石・砂・空間部の貯留量の合計

碎石 : $(W \times H - W_1 \times H_1) \times \text{空隙率}$

砂 : $W \times H_2 \times \text{空隙率}$

空間部 : $W_1 \times H_1$

※単粒度碎石及び砂の空隙率は 35% (0.35) としてください。

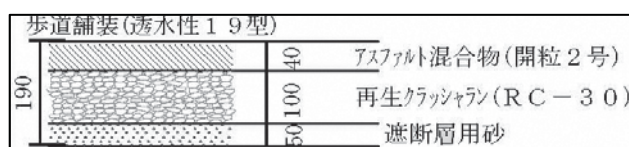
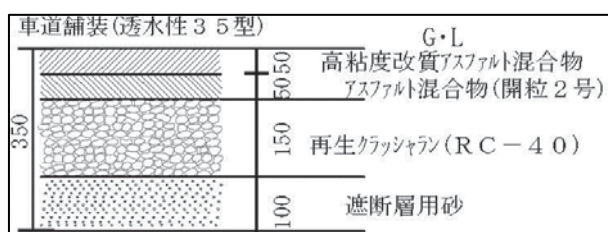
①必要添付資料及び記載事項

- ・ 構造図
- ・ 浸透側溝の雨水浸透・貯留量計算式
- ・ 敷地平面図に設置延長 (区間長、合計延長) を記入

②計画にあたっての留意点

- ・ 流末にオリフィス柵を設置すること。
- ・ 側溝の底面に砂を厚さ 5～10cm、碎石を 10cm 以上充填すること。
- ・ 側溝の側面には碎石を 10cm 以上充填すること。
- ・ W_1 は 15～45cm を標準とする。
- ・ 原則、側溝には蓋掛けをすること。
- ・ 屋根排水の取付口には、状況に応じて泥溜まりを設けること。

(4) 透水性舗装



①単位貯留・浸透量 ($m^3/(m^2 \cdot hr)$)

表層(開粒アスファルト)の劣化を考慮し、車道舗装は $0.05 m^3/(m^2 \cdot hr)$ 、歩道舗装は $0.02 m^3/(m^2 \cdot hr)$ としてください。透水性セメントコンクリート、透水性平板ブロックも同様とします。

②必要添付資料及び記載事項

- ・ 構造図
- ・ 透水性舗装の雨水浸透・貯留量計算式
- ・ 敷地平面図に設置箇所を舗装種別ごとに記載
- ・ 舗装面積表

③計画にあたっての留意点

- ・ 透水性舗装は、歩道、自転車道および自動車交通の少ない生活道路、駐車場等に用いること。
- ・ 路面の横断勾配は歩道で 1～2% を標準とする。

(5) 土地利用別浸透能力

①単位貯留・浸透量($\text{m}^3/(\text{m}^2 \cdot \text{hr})$)

浸透能力の高い緑地等を設ける場合は、下表に基づいて単位貯留・浸透量を設定してください。ただし、グラウンドや歩道、駐車場等に利用されている裸地は浸透能力が低いため、浸透能力は0とします。

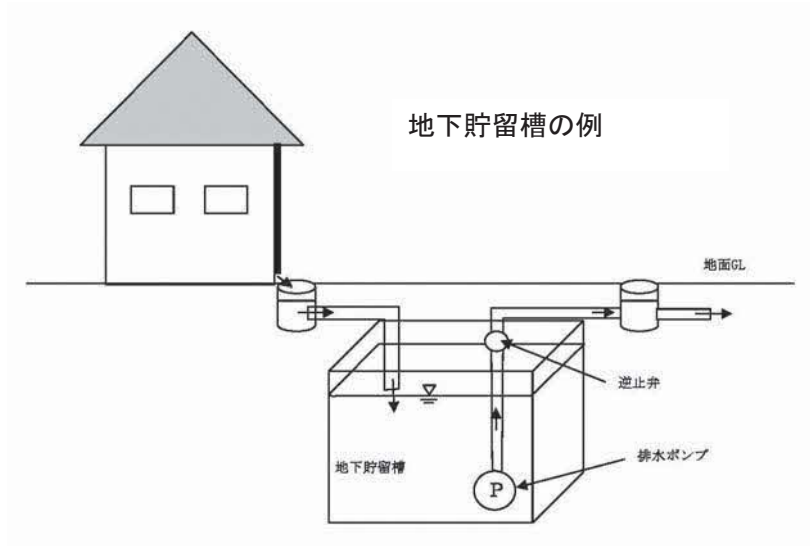
土 地 利 用	単位貯留・浸透量 ($\text{m}^3/(\text{m}^2 \cdot \text{hr})$)	評 価
畑 地	0.13	良 好
林 地	0.06	
芝 地	0.05	
植 栽	0.05	
草 地	0.02	
裸 地	0	不 良
グラウンド	0	

②必要添付資料及び記載事項

- ・土地利用別の雨水浸透・貯留量計算式
- ・敷地平面図に設置箇所を土地利用別ごとに記載
- ・土地利用別面積表

(6) 雨水貯留槽

屋内外の地下等に貯留槽を設けて、雨水を一時貯留する場合



①計画貯留量 (m³)

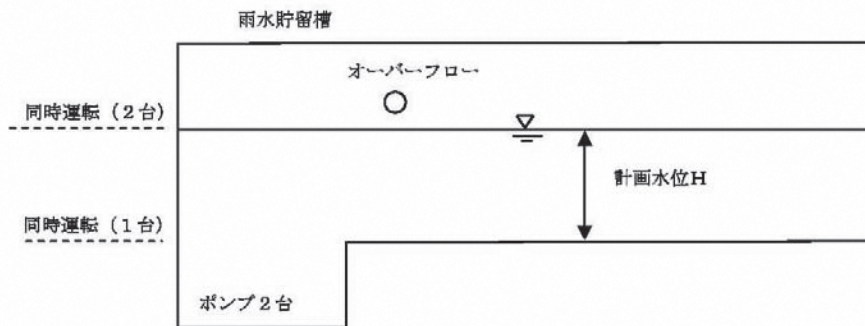
$$\text{貯留槽面積 (m}^2\text{)} \times \text{設計水深 (m)} = \text{計画貯留量 (m}^3\text{)}$$

②必要添付資料及び記載事項

- ・ 雨水貯留槽の平面図、断面図
貯留槽の面積計算、計画水深の表示
流入管、流出管、オーバーフロー等の口径、位置の高さの表示
釜場、人通口、流通管の位置の表示
- ・ 敷地平面図に設置箇所を記入
- ・ 使用排水ポンプの吐出し量計算、選定図（グラフ）等の資料

③計画にあたっての留意点

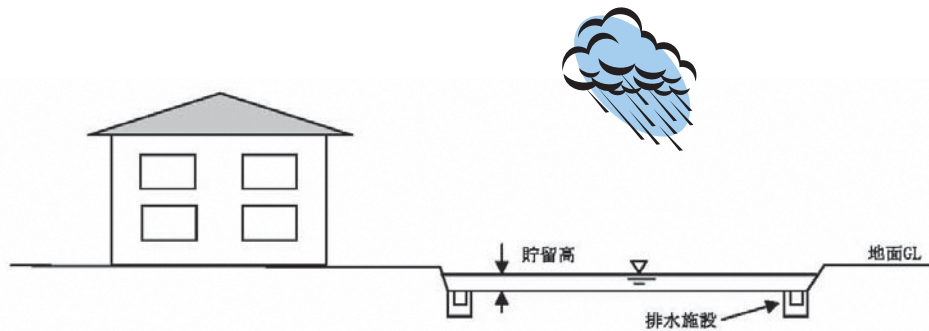
- ・ 貯留槽内に釜場を設置すること。
- ・ 人通口は直径 600mm、流通管は直径 200mm の半円を標準とする。
- ・ 原則、自然放流のオーバーフロー管を設置すること。設置できない場合は、満水状態になったときに流入水を遮断する仕組みを設けること。
- ・ 排水ポンプは 2 台設置し、自動交互運転とする。なお、ポンプ 2 台の同時運転は、計画水位に達したときに起動するように調整すること。フロートにより起動する場合は、フロートの高さに注意すること。



- ・ 下水道施設等への放流量は1時間あたり20mm以下とすること。

(7) 貯留施設

公園、校庭、駐車場、集合住宅の棟間等の空気を下げることにより、降雨時に雨水を一時的に貯留・浸透させ、流出抑制を図るものである。



① 計画貯留量 (m³)

$$\text{面積 (m}^2\text{)} \times \text{貯留高 H (m)} = \text{計画貯留量 (m}^3\text{)}$$

② 計画浸透量 (m³)

底面の土地利用方法 ((5) 参照) で浸透能力を見込める場合は、以下の計画浸透量を①に加えてください。

$$\text{面積 (m}^2\text{)} \times \text{単位浸透量 (m}^3\text{/(m}^2 \cdot \text{hr))} = \text{計画浸透量 (m}^3\text{)}$$

③ 必要添付資料及び記載事項

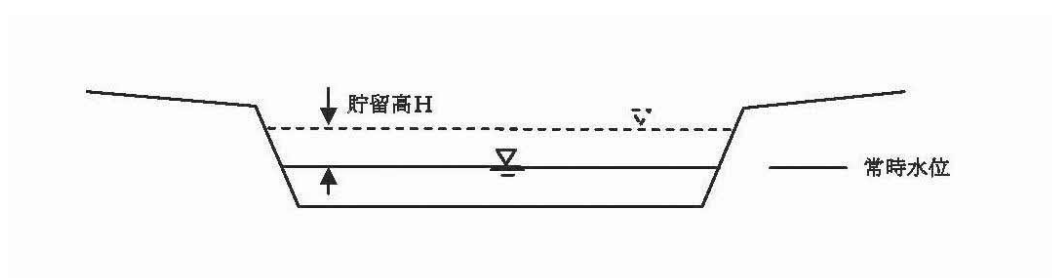
- ・ 貯留施設の平面図、断面図
- 貯留施設の面積計算、貯留高、排水施設等の表示

④計画にあたっての留意点

- ・ 貯留高は土地利用ごとに安全水深以下とし、堆積量を考慮して10cm以上とする。
- ・ 学校等の屋外広場を貯留施設として利用する場合は、児童・幼児に対する安全性等を考慮すること。
- ・ 公園・緑地等を貯留施設として利用する場合は、公園機能、利用者に対する安全性、修景などを考慮すること。
- ・ 駐車場を貯留施設として利用する場合は、利用者の安全性や自動車の走行性等を考慮すること。
- ・ 集合住宅の棟間を貯留施設として利用する場合は、緊急車両の進入、建築物の保護、幼児に対する安全性等を考慮すること。
- ・ 必要に応じ、降雨時の施設の危険性を示す注意喚起看板や進入防止柵を設置すること。また、降雨時に利用者が容易に避難できるように段差や勾配等を配慮すること。

(8) 貯水池

公園等で常時水が堆水しており、降雨時に貯水池の役割を担うもの



①計画貯留量 (m³)

$$\text{面積 (m}^2\text{)} \times \text{貯留高 H (m)} = \text{計画貯留量 (m}^3\text{)}$$

②必要添付資料及び記載事項

- ・ 貯水池の平面図、断面図

③計画にあたっての留意点

- ・ 利用者の安全性等を考慮すること。

(9) 置換（空隙）貯留

公園、校庭等の空地を掘削し、碎石等で置換することにより、地下に空隙を設けて貯留するもの。

①計画貯留量（ m^3 ）

幅（ m ）×高さ（ m ）×延長（ m ）×空隙率＝計画貯留量（ m^3 ）

※単粒度碎石及び砂の空隙率は35%、クラッシャーランは10%としてください。

②必要添付資料及び記載事項

・置換する場所の平面図、断面図

③計画にあたっての留意点

・上載荷重や吸出しによる不当沈下を生じないような対策（透水シートなど）を講じること。

(10) U形側溝（不浸透）

排水施設としてU形側溝を設置し、下水道施設等が満水になった際に貯留施設の役割をするもの。

①計画貯留量（ m^3 ）

U形側溝内の空間面積（ m^2 ）×設置延長（ m ）＝計画貯留量（ m^3 ）

②必要添付資料及び記載事項

・構造図
・U形側溝の雨水貯留量計算式
・敷地平面図に設置延長（区間長、合計延長）を記入

(11) その他の雨水貯留浸透施設

上記以外の雨水貯留浸透施設を設置する場合は、事前に担当者と協議してください。

5. 放流施設について

下水道・側溝・水路への放流量は、オリフィスマス等により1時間あたりの放流量を20mm以下とすること。

(排水ポンプを使用し地下貯留槽単独により抑制する場合は、オリフィスによる放流量調整は必要ありません。)

1時間あたりの放流量【Q】(m³)=敷地面積(m²)×0.02(m³/m²)

オリフィスマスの断面決定算定式は、下記の式による。

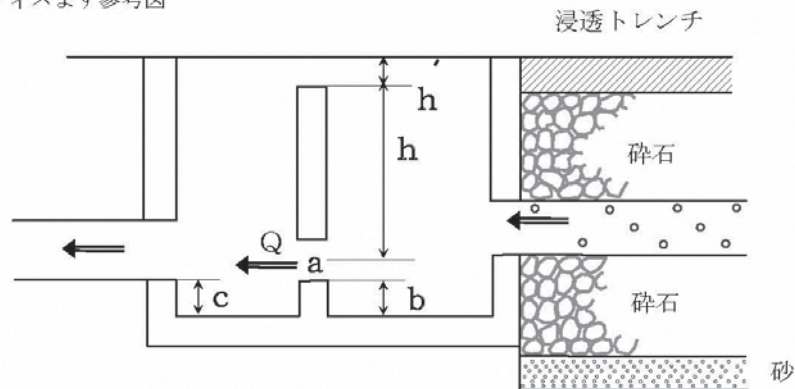
$$a = \frac{\text{放流量} Q \text{ (m}^3\text{/1秒あたり)}}{c \times \sqrt{2 \times g \times h}}$$

a : オリフィス断面積 (m²)
 c : 0.6 (定数)
 g : 9.8 (重力加速度)
 h : オリフィス中心までの水深 (m)

円形断面に変更計算するには、直径 (mm) = $\sqrt{a / 3.14} \times 2 \times 1000$
 正方形断面に変更計算するには、一辺 (mm) = $\sqrt{a} \times 1000$

(注) オリフィスマスの位置は、地下水の上水面より上に設置して地下水を呼び込まないようにすること。

オリフィスマス参考図



- a : オリフィス断面積 (m²) ただし、最小でも直径 50mm とする
- b : だろだめ 15cm 以上
- c : 流出管底の高さ b の高さ以下
- h : オリフィス中心までの水深 (m)
- h' : オーバーフロー管設置位置

①必要添付資料及び記載事項

- ・ 構造図
- ・ オリフィス口径の計算式
- ・ 敷地平面図に設置箇所を記入

②計画にあたっての留意点

- ・ ますの泥溜は、150mm 以上とする。
- ・ オーバーフロー管（矩形管含む）は必ず設置すること。また、碎石高より上に設置すること。
- ・ オーバーフロー管、流出管の口径は、流入管の断面積以上を原則とする。
- ・ 流出・オリフィスの管底は、流入管の管底と同等かそれ以下とする。
- ・ 雨水公設柵へ接続する流末に設置するものとする。ただし、合流式下水道のため汚水公設柵のみの場合は、敷地内合流柵の手前に設置するものとする。

6. 維持管理

浸透・貯留施設の管理者は、流出抑制施設を保持するために定期的に清掃等の維持管理を行ってください。日常点検のほか、出水期（6月～10月）前に年1回以上の定期点検を実施してください。なお、流出抑制施設の設置者と管理者が異なるときは、施設の構造等が分かる資料や維持管理の方法等に関して適切に連携や調整をお願いします。

また、適切な維持管理を実施していくために必要に応じて管理マニュアル、台帳、チェックリスト等を作成してください。

（1）浸透施設の維持管理

浸透施設は目詰まり等により浸透機能が低下するため、土砂やゴミ等の清掃や破損箇所の補修などを行ってください。

（2）貯留施設の維持管理

貯留施設内や流出入口付近において、土砂等により詰まりの発生や破損してしまうと貯留施設が機能しなくなるため、清掃や補修、交換等を適宜行ってください。

地下貯留施設内の清掃を行う場合は、換気等を行い、作業環境を常に良好な状態としてください。

7. 提出資料

雨水流出抑制担当者へ提出する際は以下の資料を添付してください。

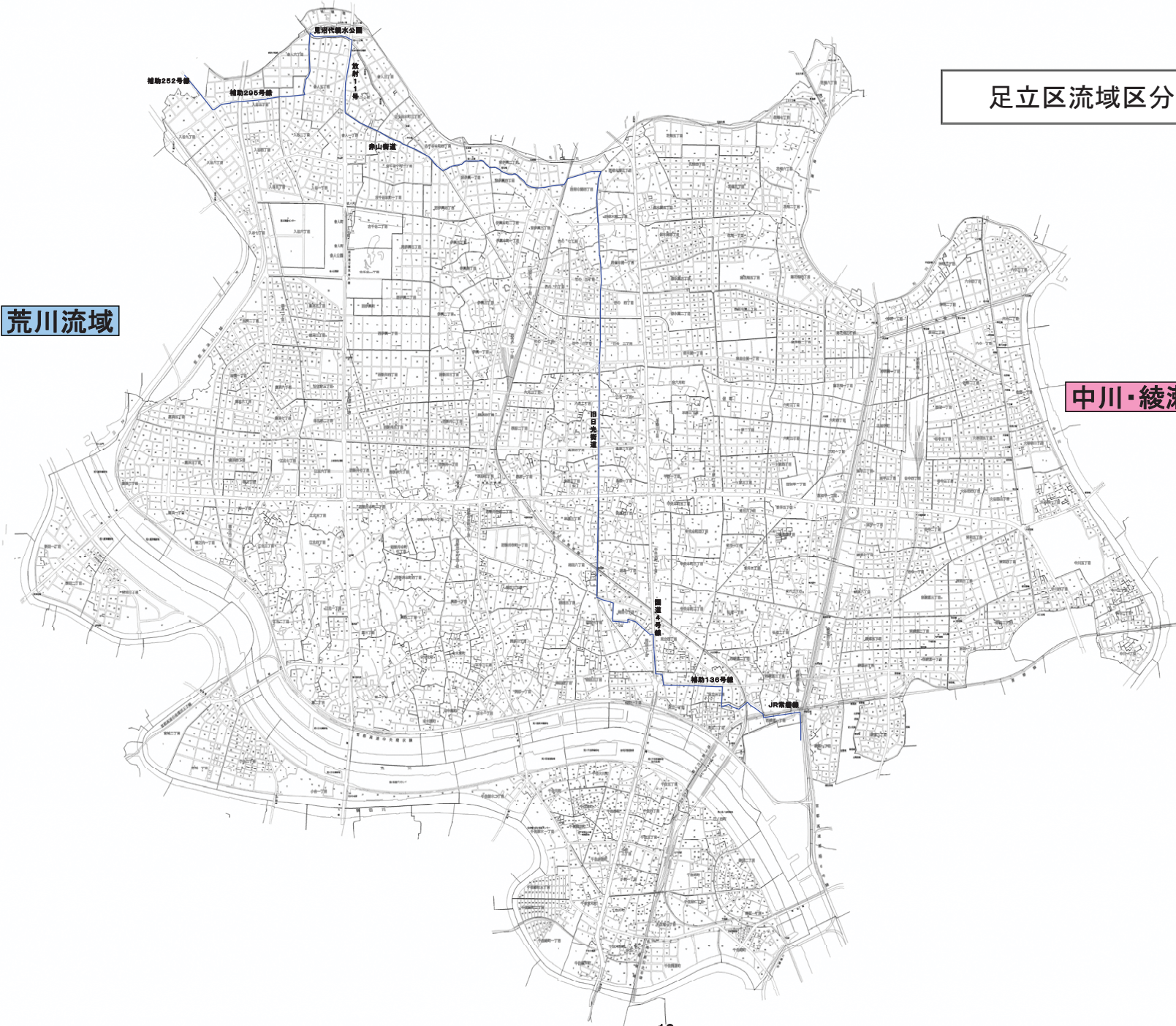
- ① 敷地面積や開発面積が分かる図面
- ② 地下水位の算定、土質を確認した資料（柱状図等）
- ③ 飽和透水係数を算定した資料（現地浸透試験結果等）
- ④ 敷地内の全ての排水経路及び接続先の公設柵位置が分かる図面
- ⑤ 必要抑制量及び雨水流出抑制施設の雨水貯留浸透量一覧表
- ⑥ 各雨水流出抑制施設の必要添付資料
- ⑦ オリフィス柵の必要添付資料
- ⑧ 維持管理方法
- ⑨ その他必要資料

※ 上記の様式は任意です。⑤については別紙2を参考に作成してください。

足立区流域区分け図

荒川流域

中川・綾瀬川流域



雨水貯留浸透量 一覧表

○計画条件

流域名			流域
敷地面積	m ²	開発面積	m ²
必要抑制量	0 m ² ×	m	= 0 m ³
地下水位 (GLからの下がり)			m
飽和透水係数			m/hr

○各浸透施設の雨水貯留浸透量

抑制施設名	数量	単位貯留・浸透量	計画抑制量(1時間当り)
浸透トレンチ	m	m ³ /(m・hr)	0 m ³
浸透雨水柵	個	m ³ /(個・hr)	0 m ³
浸透側溝	m	m ³ /(m・hr)	0 m ³
透水性舗装(車道用)	m ²	0.05 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
透水性舗装(歩道用)	m ²	0.02 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
畑地	m ²	0.13 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
林地	m ²	0.06 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
芝地	m ²	0.05 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
植栽	m ²	0.05 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
草地	m ²	0.02 m ³ /(m ² ・hr)	0 m ³
雨水貯留槽	基	m ³	0 m ³
貯留施設		m ³	0 m ³
貯水池		m ³	0 m ³
置換(空隙)貯留	m	m ³ /(m・hr)	0 m ³
U形側溝(不浸透)	m	m ³ /(m・hr)	0 m ³
合計			0 m ³

必要抑制量 0 m³ < 計画抑制量 0 m³

※同一の抑制施設で規格が複数ある場合は、上表の行を追加して記入してください。

<問い合わせ先>

■公共施設の雨水流出抑制担当部署

都市建設部 企画調整課 企画調整担当

TEL 03-3880-5160

E-mail k-chosei-tanto@city.adachi.tokyo.jp

■民間施設の雨水流出抑制担当部署

建築室 開発指導課 開発指導係

TEL 03-3880-5272

E-mail kaihatu-shido@city.adachi.tokyo.jp